

ヤマザキ動物専門学校
学校関係者評価委員会 報告書

令和元年 6 月 26 日

1.日時 令和元年6月26日(水) 15:00~16:00

2.場所 ヤマザキ学園 渋谷キャンパス2号館 143教室

3.出席者

(1)学校関係者評価委員 任期は何れの委員も1年

島津 裕美 (環境省自然環境局総務課動物愛護管理室 当該分野専門家)

木下 美奈子 (ヤマザキカレッジ 卒業生)

大澤 忠廣 (公益財団法人日本高等教育評価機構 学校評価専門家)、委員長

千葉 辰男 (千葉・小坂会計事務所 学校運営専門家)

金井 由美子 (ヤマザキ動物専門学校 保護者)

(2)専門学校出席者

山北 宣久 (ヤマザキ動物専門学校 校長)

山口 博文 (ヤマザキ動物専門学校 副校長)

橋本 直子 (ヤマザキ動物専門学校 教育部長)

佐藤 恵子 (ヤマザキ動物専門学校 事務部長)、書記

岡田 智栄 (ヤマザキ動物専門学校 事務部教務・学生課長)

4.学校関係者評価委員会 評価・意見

基準1. 教育理念・目標・育成人材像

特になし。

基準2. 学校運営

『中長期の計画について』

中長期の計画はどのようにしているか。

回答：中長期構想委員会を年4回開催している。財務、人事、教育内容等についても中長期の計画に織り込み、検討していく必要がある。国家資格化に伴う専門学校の体制についても検討していく。

基準3. 教育活動

『独立支援について』

独立支援についての教育を行っているのか。卒業生のインターンシップ受入先が増えると目標とする人物像が具体化できるので良いのではないか。

回答：就職セミナーで独立開業した先輩を招き、講演をしている。独立支援についての教科については一部の学科で行っているが、今後の課題としたい。

『新コアカリキュラムについて』

動物看護師統一認定機構のコアカリキュラム改正に伴い、具体的なカリキュラムの変更はどのような点か。

回答：動物看護の実習が増え、グルーミング実習が減少した。コンパニオンアニマルに関する内容が中心ではあるが、産業動物、実験動物、野生動物に関する内容が増えた。

基準4. 学修成果

『国家資格化について』

国家資格化についての対応はどのように予定しているのか。

回答：令和元年6月21日に法案が成立したばかりであるので、中長期構想委員会等で検討していく。

基準5. 学生支援

『退学者について』

退学の要因は何か。

回答：学習意欲低下によるもの、病気療養が多く、経済的理由は少ない。退学率低減の対策として、動物が好きなことだけではなく、職業観を身に付けることが大切と入学前の段階で理解して頂くことが有効と考え、説明会での対応の強化をはかっている。

『保護者との連携について』

ホームページ等でもっと学校生活についての情報発信をして欲しい。時間割等についても保護者が閲覧できるようにして欲しい。

回答：保護者への連絡は学年便りを通じて年2回行っている。平成30年度はホームページでの掲載回数を増やしたが、今後も情報発信を増やすよう検討する。

『保護者向けの説明会について』

保護者向けのオリエンテーションや就職説明会を開催しているのか。

回答：現在、保護者対象の就職説明会は開催できていないので、今後の課題として検討したい。

基準6. 教育環境

『防犯体制について』

渋谷キャンパス1号館及び2号館の防犯体制について教えて欲しい。

回答：防犯カメラをそれぞれ設置している。各校舎に刺股を設置している。不審者情報があった際には正面玄関の施錠や、学生の登下校時に教職員が出入り口で見守る等の対応をしている。

基準7. 学生の募集と受入

『入学生の志望動機について』

入学生の志望動機はどのようなものが多いのか。

回答：動物が好きというものが多いが、仕事となるとそれだけでは出来ないことも多く、ギャップが生じることもあるため、平成31年度より、入学説明会や入願前の段階での説明内容について工夫をし、不安解消につなげている。

基準8. 財務

特になし。

基準9. 法令等の遵守

『自己評価報告書について』

教職員全体に自己評価の内容について周知しているか。また、教職員全体から出た意見をまとめ、検討しているか。

回答：教職員全体に自己評価報告書を配布しており、図書館にも設置し、学生の閲覧も可能としている。教職員全体から出た意見は自己点検・評価委員会で共有しているが、もっと積極的に意見を出し合い、反映させていくことがこれからの課題である。

基準10. 社会貢献・地域貢献

特になし。

以上

記録／事務部 佐藤恵子